

興津宿 日本はここから見えていた ● 約4km

1300年も前から関が設けられ、その立地が政府にとって重要な場所として位置づけられていた興津は、明治時代になると財政各界の著名人の別荘地として脚光を浴びていました。このコースは旧東海道を歩きながら開国時の日本に思いをはせます。

- 旧東海道
- お勧め探訪コース
- 📍 情報拠点
- 見どころ
- 🏠 案内板・説明板・マップ
- 📷 写真撮影ポイント
- ★ 食べ処
- 🚏 バス停
- 🚗 駐車場
- 🚻 トイレ
- 🏪 24h コンビニ
- 🍰 甘味処

①日本の三大並木 (独楽荘跡)

独立行政法人農業生物系特定産業技術研究機構果樹研究所には日本初剪定した「プラタナスの並木」が30mにわたり植えられています。これは英国キュー植物園でアメリカ種とヨーロッパ種の高配によりつくられました。東大のいちよう並木、北大のポプラ並木と並んで明治時代の三大並木の一つです。山の中腹には、ワシントンのポトマック河岸に植えられている「寒桜」の原木がありました。

●立ち入りには要予約

②一碧楼水口屋跡 脇本陣

(水口屋ギャラリー フェルケール博物館別館)

水口屋初代当主は、武田信玄の家臣、興津砦の主であり、武田家亡き後、塩や魚などを甲斐へ物資を送る商人でした。江戸時代には脇本陣、明治以降は、政治家、皇族、財界人、小説家、画家などの各界著名人の別荘旅館として愛され、昭和32年の国体の天皇皇后陛下の宿舎としても選ばれました。

第二次大戦後、占領軍に接収されたなか来日したアメリカ人オリバー・スタットラー氏が昭和36年に「JAPANESE INN〜東海道の宿 水口屋ものがたり」を出版し、評判となり、多くの外国人観光客が訪れた旅館でしたが、昭和60年に廃業し、現在はギャラリーとして代々水口屋に受け継がれた資料を公開しています。

- 10:00~16:00
- 休/月曜日・年末年始
- 無料 ●TEL 054-369-6101

朝鮮通信使とは…

家康公の要請により1607年から約200年間12回国賓として来日しています。最初の3回は「刷還使」と呼ばれ、日本にいた朝鮮人を故郷へ帰すことを目的としていました。その後は信を表す使節団としています。清見寺・興津の宿場にも泊まり、地域の人たちと儒学、医学、詩文、書画等の交流を、夜を徹して行われました。隣国同士が約260年もの間平和で対等な交流を行っていたことは世界でも珍しいことでした。



東本陣跡興津宿公園

日本の三大並木
(農業生物系特定産業技術研究機構果樹研究所)



7 井上馨旧邸跡 (静岡市埋蔵文化財センター)

6 情報拠点: 坐漁荘

5 清見寺

4 清見関跡

2 一碧楼水口屋跡 脇本陣

⑥坐漁荘

敷地300坪。京風の瀟洒な木造二階建。元老西園寺公が大正8年から20年余を過ごした別荘である。「坐魚」とは中国の故事で魚釣りでもしてのんびり過ごす事を意味しており、三保の松原、清見湯を目前にしていた。当時は、政客がひきもきらず訪れ、「興津もうで」という言葉を生み出した。現在の建物は復元され、平成16年4月に一般公開され、「坐漁荘観光ボランティア」のスタッフが常時来館者への解説を行っています。

- 10:00~17:00(平日)、9:30~17:00(土日祝日)
- 休/月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始
- 無料 ●TEL 054-369-2221

⑦静岡市埋蔵文化財センター

明治の元老井上馨旧邸「長者荘」跡地にあり、市内で発掘されたいほはらの国の時代(縄文時代)の遺物が公開されています。

- 9:00~16:30
- 休/第2・4・5の土日と祝日、年末年始
- 無料 ●TEL 054-367-9436

元老とは…

元老とは、明治天皇より「元勳優遇」と呼ばれる特別の勅語を受けた天皇の相談役。伊藤博文(長州)、黒田清隆(薩摩)、山県有朋(長州)、松方正義(薩摩)、井上馨(長州)、西郷従道(薩摩)、大山巖(薩摩)、桂太郎(長州)、西園寺公望(京都)の9人が元老であり、そのうち伊藤、松方、井上、西園寺の4人は興津に別荘や借別荘を持っていたそうです。

“最後の元老” 西園寺公望とは…

3歳で公卿西園寺家の当主となり、ソルボンヌ大学で10年学び、日本人で初めて正規の学位を受けた。明治・大正・昭和の政治家であり、(2度の総理大臣経験者)、平民主義を貫いた。透徹した見通しと冷静な分析、豊かな国際経験と公正な政治的な見識の持ち主として高く評価されていました。

③皇太子殿下海水浴跡

明治22年、東海道線が静岡まで開通したことで、皇太子(大正天皇)が興津に来訪しました。この時は清見寺に滞在し、興津の海(清見湯)で海水浴を楽しみ、興津は全国的に有名に。皇太子は翌年も海水浴に訪れています。

④清見関跡

約1300年前の白鳳時代、東北の蝦夷に備えた関所として清見関が設けられました。その関所の鎮護として仏堂が建立され、それが清見寺の創建として伝えられています。

⑤清見寺

徳川家康の幼年時代に教育を受けた「手習いの間」があり、家康公が接木したと言われる「臥龍梅」、宋版石林先生尚書伝、梵鐘、山門、紙本墨画達磨像、猿面硯、梵字見台など数多くの文化財があり、境内全域が朝鮮通信使関係史跡に指定されています。五百羅漢は、江戸後期の仏像でそれぞれ違った表情をしており、傑作と称され、島崎藤村の「桜の実の熟する時」の一節にも登場しています。

朝鮮通信使、琉球使節が訪れ、寺内に朝鮮通信使の扁額が残っており、異文化の窓口でもありました。この寺は三葉葵の紋を許され、徳川家の帰依をうけていました。

- TEL 054-369-0028